

平成31年度 人間総合科学研究科生涯発達専攻 カウンセリングコース
入学試験問題

解答上の注意

1. この問題冊子は、表紙も含めて7頁、問題は3問あります。
2. 問題1、問題2、問題3ともに、所定の答案用紙を使用して下さい。
3. 更紙（何も印刷されていない紙）は下書き用です。
4. それぞれの答案用紙の所定の欄には、必ず、受験番号を記入して下さい。
5. ローマ字・算用数字は1マスに2文字記入して下さい。
その場合も、解答字数は1マスで1文字と数えます。
6. 解答し終わった答案用紙は裏返しにふせて、机の左側から順に、問題1-1、問題1-2、問題1-3、問題1-4、問題2、問題3と机の上に置いて下さい。その他の用紙は、机の右側にまとめて置いて下さい。
7. **配布された全ての用紙(問題冊子、答案用紙6枚、下書きの更紙1枚)は、一切、室外に持ち出すことはできません。**

問題 1

以下の7つの用語について、それぞれ100字～200字の範囲で説明しなさい。

- ① インテーク面接 (intake interview)
- ② ビッグ・ファイブ性格特性 (big five personality traits)
- ③ 適性処遇交互作用 (aptitude-treatment interaction)
- ④ 社会的微笑 (social smiling)
- ⑤ 社会的促進 (social facilitation)
- ⑥ 有意水準 (level of significance)
- ⑦ 職務ストレス (job stress)

問題2

下記の小論を読んで、以下の問に答えなさい。

1. 小論の内容を200字以内で要約しなさい。
2. 小論の内容を踏まえながら、テレビ報道がもつ「危うさ」について、その受け手として気をつけなければならないことを400字以内で述べなさい。

本文は著作権法により公開しておりません。

出典 国谷裕子 (2017). キャスターという仕事 岩波書店 12～16頁 一部改変

問題3

以下の図は、2016年7月から10月に、厚生労働省が、全国の20～64歳の企業・団体に勤務する者10,000名にインターネットで調査をし（以降、勤務者調査：回収数10,000名）、全国の従業員30人以上の企業・団体20,000社（以降、企業調査：回収数4,587社）を対象に郵送で調査をした「職場のパワーハラスメントに関する実態調査報告書（平成28年度調査）」の結果の一部である。

1. 図1、2、3、4から推察される、職場の中で生じている問題について記述しなさい。（250字以内）
2. また、1.で記述した問題について、より詳細に分析するためには、他にどのような調査を行う必要があると考えますか。あなたが必要だと考える調査の方法や対象、項目などについて記述しなさい。（350字以内）

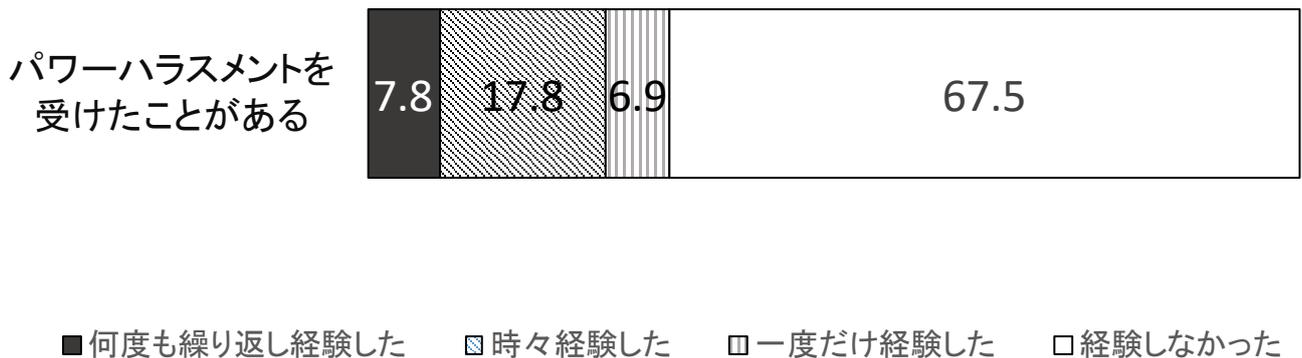


図1 過去3年間のパワーハラスメントの経験（勤務者調査より）

（注）数値の単位は%である。

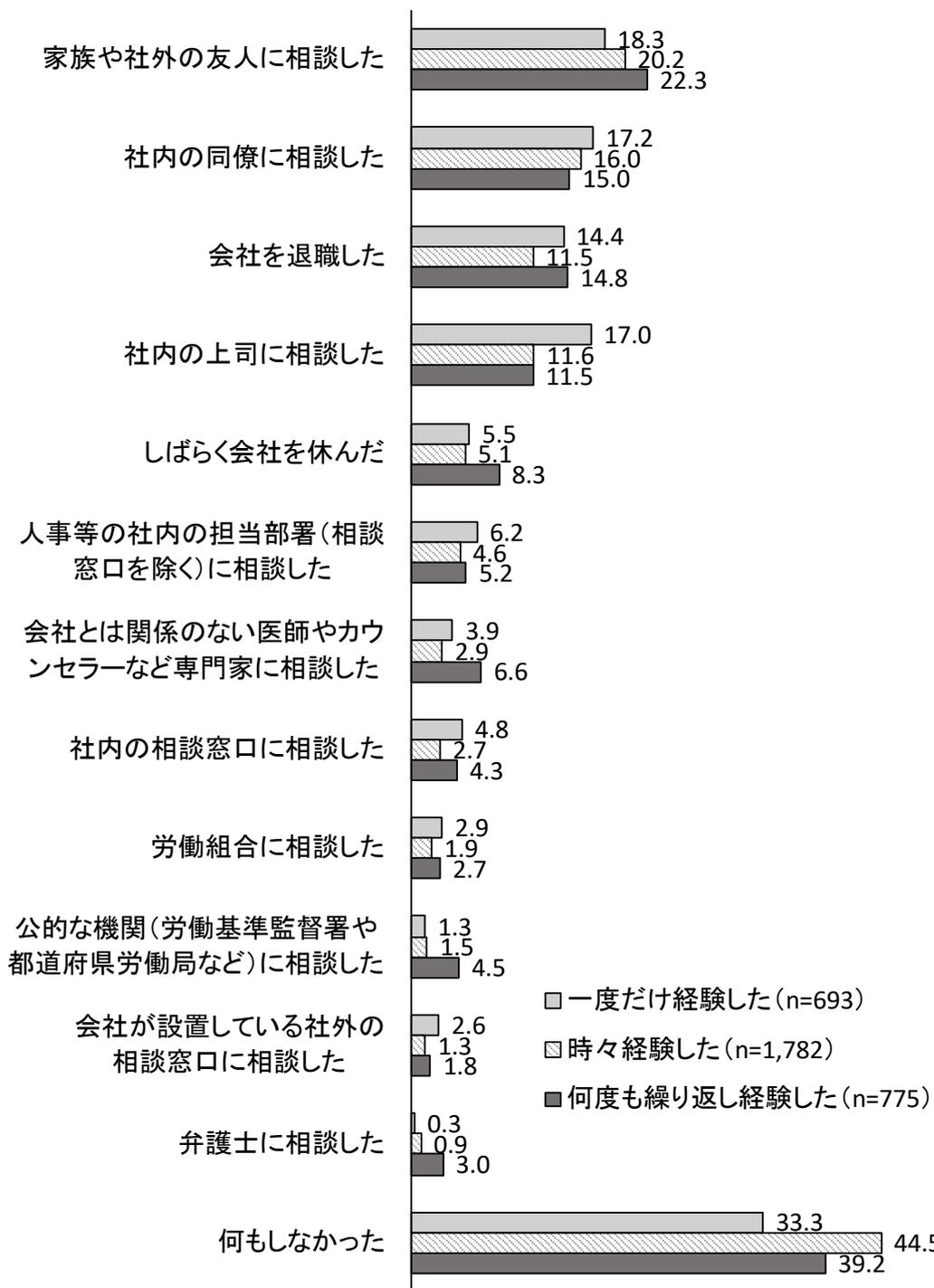


図2 過去3年間にパワーハラスメントを受けたと感じた者におけるその後の行動（勤務者調査より）

（注）数値の単位は%であり、複数回答形式で回答を得ている。また、調査対象は、図1において「何度も繰り返し経験した」「時々経験した」「一度だけ経験した」のいずれかを選択した者のみである。

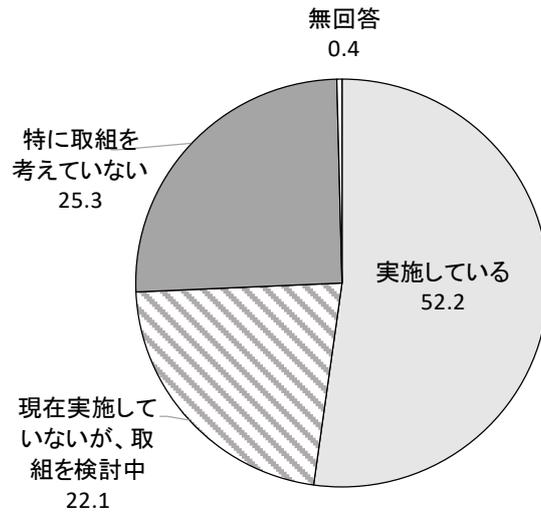


図3 「パワーハラスメントの予防・解決のための取組の実施状況」に関する問題への回答（企業調査より）

（注）数値の単位は%である。

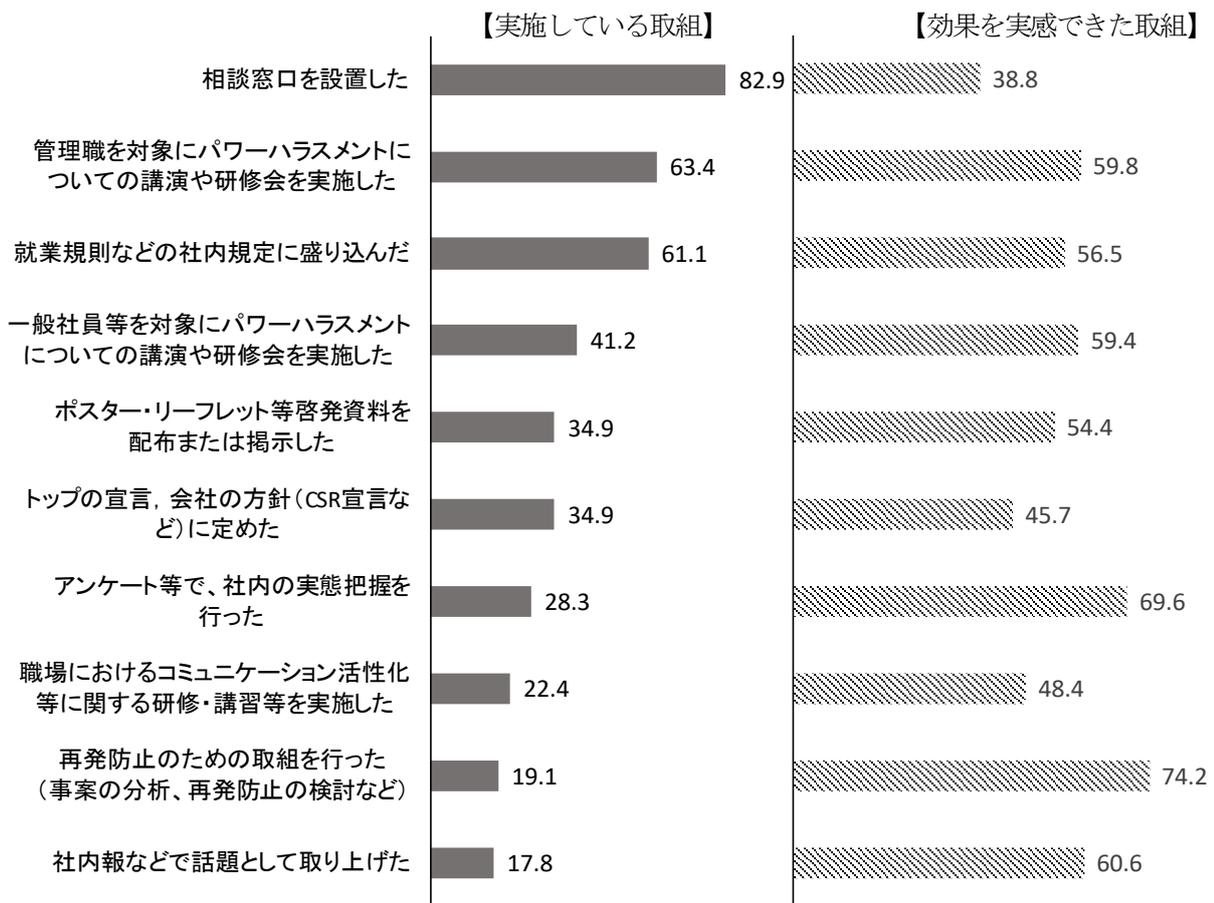


図4 パワーハラスメントの予防・解決に向けて実施している取組と、効果を実感できた取組（企業調査より）

（注）数値の単位は%であり、複数回答形式で回答を得ている。また対象は、図3において「実施している」と回答した企業のみである。なお、「効果を実感できた取組」の比率は、それぞれの取組を実施している企業のうち、その取組について「効果を実感できた」と企業側が回答した割合である。